

今年度の

コミュニティ助成事業の 実績をお知らせします



くわしくは 地域振興課 市民協働推進係 ☎21-5147



ヘルメット



除雪機



拡声器



オープンレンジ



折りたたみ式リヤカー



チェーンソー

◆今年度の整備状況

市はこの助成を受け、今年度の事業として森友若杉町自主防災会、矢野口自主防災会、千本木自主防災会、霧降東自主防災会、東郷町自主防災

会、大桑町自主防災会、大渡自主防災会、明神自主防災会、上町谷自主防災会、関の沢自主防災会の10の自主防災会に対し、ヘルメットや拡声器、折りたたみ式リヤカーなどの防災資機材を整備しました。大切に使用して、地域の防災力を高めましよう。

また、日光地域の49の自治会が使用できるように、除雪機やオープンレンジ、チェンソーなどの備品を整備しました。

日光地域におけるイベント、環境美化など、住民による自主的なコミュニティ活動を積極的に促進しましょう。

◆コミュニティ助成事業とは

自治総合センターは、市町村やコミュニティ組織に対して毎年宝くじの売上金の一部を助成する事業を行っています。

この助成事業は、コミュニティの健全な発展と自治宝くじの普及広報を目的としています。

地域の絆で「コミュニティの元氣アップ」

地域で大切なのは、住民同士のつながりの関係「地域コミュニティ」です。

市は、自治会や自主防災会など、地域コミュニティの活性化に向けて、今回お知らせした「コミュニティ助成事業」をはじめとしたさまざまな支援を行っています。個別の支援の内容については、地域振興課までお問い合わせください。

皆さんが暮らすそれぞれのまちを、より一層明るくて住みやすい、そして安全で安心できるまちにするためには、地域の絆が大きな力になります。

多くの皆さんがコミュニティ活動に積極的に参画し、地域の元氣アップを図りましょう。



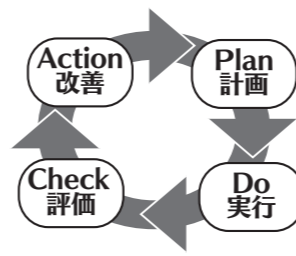
地域振興課 齋藤仁志主査

行政評価制度とは

市は、行政改革に積極的に取り組み、効率的かつ効果的な行政経営に努めています。今回は、その取り組みの中から、行政評価の実施状況についてお知らせします。

これまでの行政経営は「計画・実行」に重点を置いてきましたが、財政状況が厳しい中、限りある財源を有効活用し、行政(市民)サービスの向上を図るため「評価・改善」を行うことが必要とされています。「計画・実行・評価・改善」のPDCAサイクルを繰り返して、結果を事業の見直しや予算編成などに反映させる取

表1: PDCA サイクル



り組みを「行政評価」といいます。市は、市が実施する事業について評価検証し、見直しを行うために、毎年度職員自らが「過年度の事務事業に関する行政評価」を行っています。平成26年度に引き続き、市の政策・施策を計画的に実行するために総合計画との連動・連携をより強化し、評価が次の事業展開に生かされるような方法で実施しました。

今年度の評価対象は、総合計画実施計画に位置付けられた施策52分野の642の個別事務事業です。評価は、施策の目的を個別の事業ごとに照らし合せ、目的達成に対して「妥当性」「効率性」「有効性」の3つの項目を総合的に考慮した上で行いました。その評価から「規模(量)」と「費用」を踏まえ、今後3年間の方向性を出しました。総合評価結果については、下の表2・3のとおりです。

なお、詳細は市ホームページや市役所本庁舎2階の情報公開コーナーで、評価内容を全て公表しています。

表2: 総合評価結果

総合評価	事業数
A: 計画どおりに事業を進めることが妥当	492 事業
B: 事業の進め方の改善または事業主体の見直しの検討	100 事業
C: 事業の規模・内容見直しの検討	28 事業
D: 事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討	9 事業
平成25年以降に完了または平成26年度実績なし	13 事業

表3: B・C・D評価における今年度事業の方向性の内訳

事業の方向性	総合評価	B評価	C評価	D評価
規模・費用ともに拡大		7 事業	1 事業	
規模維持、費用拡大		5 事業		
規模拡大、費用維持(効率化)	28 事業		2 事業	
規模・費用ともに維持(現状維持)	49 事業		14 事業	1 事業
規模縮小、費用維持			3 事業	
規模拡大、費用縮小(効率化)	1 事業			
規模維持、費用縮小(効率化)	5 事業		5 事業	1 事業
規模・費用ともに縮小(段階的撤退)	4 事業		3 事業	1 事業
事業の完了	1 事業			3 事業
事業の廃止				3 事業

効率的な
行政経営
のために

行政評価に

取り組んでいきます

くわしくは 行政改革課

行政改革係

☎(25)7722

